

県医労連FAXニュース

TEL:088-849-4893 FAX:088 850-7798

e-mail:trbmx804@ybb.ne.jp HP:http://www.geocities.jp/k_irouren/

発行日:

2006.12.25

発行元:

高知県医労連

医師不足の解消を求める議会陳情 県下30自治体に広がる！

「医師不足を解消し、地域医療の充実を求める決議」が、12月の各市町村議会でぞくぞくと挙がり、35議会中30議会にまで広がりました。これは、県医労連が提出していたものですが、大きな反響であり、医師不足の深刻さが伺われます。

意見書は、国の関係大臣と県知事に送付されます。国の医師養成のあり方、新医師研修制度におけるマッチング制度の見直しを求めるとともに、高知県に対して抜本的かつ緊急的対策の実施を求めるものです。

署名を広げ、「地域医療を守れ！」の 声を県行政に集中しよう！

県医労連と高知自治労連連名で橋本知事宛に「要望書」を提出しています。また、現在地域では県への要望と同内容の個人署名にも取り組んでいます。

自治労連の四万十市民病院労組、県医労連の高北病院労組では、既に地域の宣伝署名行動にも取り組んでいます。

また、「幡多地域の医療を考える学習会」、佐川の医療を守る会の「医療改革と医師不足を考える学習会」も開催されています。医師不足問題を地域医療や自治体病院のあり方と結び付けて考える住民運動が動きだそうとしています。

仁淀病院労組も町会議員との懇談会を開催、病院の建て替え問題や病院の将来方向、地域医療のあり方について幅広く意見交換を行いました。

署名を軸にしながら、地域の医療懇談会・学習会、議員懇談などを幅広く、何度も開催し、1月の県交渉に要求をぶつけましょう。既に要望書は提出していますが、地域や関係者の意見を聞きながら、補足の要望書の提出も考えています。

未決議は、土佐清水市、田野町、芸西村、大豊町、仁淀川町の議会。

高知新聞 2006年12月4日
四万十市 市民病院
【幡多】地方の医師不足が社会問題化。同病
院でも来年四月から医師
不足解消に向け、四万十市
立市民病院の看護師が三
日、市中心部で署名活動
を行った。高知自治体労
働組合連合医療部と県
医師労働組合連合会の活
動の一環。年内に橋本大
二部知事に署名を添えた
要望書を提出する予定。
初期臨床研修制度の影
響による大卒の医師引
き揚げなどに伴い、医師
不足の解消を」と力を込め
ていた。
(石丸静香)



今の医師不足は、個別病院では解決できない！ 行政が、政治的決断を持って解決すべき！

今の医師不足の原因は主に3つ(別表参照)。特に、新医師研修制度が始まってからの医師の引き上げによる影響が大。

研修先が自由に選べるようになったため大都会、大病院に研修医が集中し、独立行政法人化も重なった大学による医師の引き揚げが起きたものです。

常勤医師数が、最盛期の半分程度までになっている病院もあります。四万十市民病院でも来年4月から救急の返上が決まっています。救急体制さえ維持できない深刻な事態です。

懇談したある町長は「県に要請にいったら、病院に魅力がないのが原因のように入れ心外だ」と怒りをかみ殺しました。また、「大学に医師派遣の要請に行ったら、逆に引き揚げの要請を受けた」という関係者も。

今の医師不足は、個別病院のこれまでのような「派遣要請・陳情」では、解決しません。なぜなら、政府や県の政策の誤りや見通しの甘さが引き起こしている問題だからです。「医師が研修したい・働きたい病院作り」の個別の取り組みはもちろん重要ですが、行政が政治決断をして解決策を具体的に提示することこそが求められています。

県への要望は、初期・後期研修の一体的運用から、県としての医師の一括採用など具体的な内容になっています。まずは、部長交渉で論点を詰めて、最終的には橋本知事との話し合いで政治決断を迫るようにしたいと考えています。

そのためには、地域での運動の積み重ねが大切です。署名や地域懇談会、議員要請などに取り組みましょう。そして自病院、地域医療を守っていきましょう。

健康福祉部長との話し合い

日時 1月17日(水)10:00~

場所 永国寺ビル2F

人員は15名程度です。自治体病院労組を中心に参加者を調整してください。



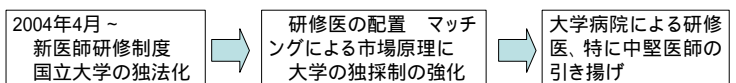
佐川の医療を守る会の学習会風景

医師不足の原因

医師の養成不足(政府の“医師過剰”の誤った認識)
病床当たり医師数も人口対比の医師数も欧米に比べ少ない

医師の過重労働 退職(開業医志向の高まり)の悪循環

新医師研修制度



スーパーローターへの移行 大学医局の封建制を打破する
医局による医師供給システムを崩壊させた